



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター教授

横山 浩之氏

前回取り上げたペアレントトレーニング(P.T)は、ほめてしつける手法です。では、どんなことをほめるのでしょうか。

「小さなことでも、できたらほめてあげましょう」という言葉を、よく聞きます。一見良さそうに見えますが、大きな間違いです。仕事柄、子育て支援や発達障害の本を手に取りますが、この間違いは多く見られます。

「小さなことでも、できたらほめてあげましょう」を実行すると、子どもは、こんなことでもほめてもらえると思ってしまう。努力しなくなってしまう。また、学童期の子どもなら、ばかにされたと考えることでもあります。

あなたが、「静かにしているとき」
③自分から自発的にやり始めたとき
④増やしたい行動をしているとき
⑤実際には、増やしたい行動にはならなかったけれども、増やしたい行動をしようとしているとき

「静かにしているとき」
③自分から自発的にやり始めたとき
④増やしたい行動をしているとき
⑤実際には、増やしたい行動にはならなかったけれども、増やしたい行動をしようとしているとき

減らしたい行動ではないことをしているとき
アメリカ生まれのP.Tでは、プロセス(過程)をほめると教えていますが、日本語ならもっとよい言い方ができます。「努力をほめる」です。われわれ大人も、例え失敗に終わっても、その過程の努力をほめられたらうれしいものです。
「小さなことでも、できたらほめてあげましょう」

努力を見つけほめる

P.Tのポイント

- ①指示に従おうとしていき
- ②指示にすぐに従っていき
- ③他の子どもと上手に遊んだり、一緒に譲り合



横山浩之氏著「マンガで分かる魔法のほめ方P.T」(小学館)に掲載されたP.Tによる対応例

「の間違いは、努力していないくて、できて当たり前」の間違いをほめられたら、うれしくないからです。
子どもの努力を見つけて、うまくほめていくのが、P.Tの最も大切なポイントです。みなさんも、ぜひがんばってください。
|| 次回は7月15日掲載 ||